

農業共済新聞 千葉版

掲載号	2 月 4 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	畑作園芸研究室長 鈴木健司
題名	サトイモ「ちば丸」の特性と栽培法 ポイントを押さえた肥培管理で収量アップ	
備考	【表説明】 写真 「ちば丸」 図 ちば丸の栽培暦	

千葉県育成のサトイモ品種「ちば丸」は、「土垂」と同じ中晩生品種で11月に収穫となります。孫いもは、丸系で、肥大と揃いの良いのが特徴です。ぬめりがやや少なく、肉質が軟らかで、滑らかな良食味です。皮むきしやすく、加工性にも優れます。貯蔵性は良いですが、萎凋病には弱いので注意が必要です。

総収量は「土垂」並みの10アール当たり2,500kg、良品の収量はやや多い10アール当たり1,200kgです。これを実現するには、土壌病害の発生防止、適切な施肥管理、そして、夏から秋にかけての適切なかん水で圃場の乾湿を小さく管理することがポイントです。

圃場は、かん水が可能で、土壌病害虫（特に、萎凋病、ネコブセンチュウ）の発生ができるだけ少ない場所を選定します。輪作を行い、前作のサトイモから3年以上空けて病害虫密度を低減させますが、被害が心配な場合は土壌消毒を行います。

基肥は緩効性肥料を中心に用い、残存窒素が多い場合は窒素肥料を削減します。1回目の追肥は5～6葉期、2回目の追肥はその3週間後頃とします。10アール当たりの窒素施用量の目安は基肥が5kg、追肥が各3kgです。収穫時期には地上の生育が小さくなって葉数1.5枚程度となるよう、草勢に応じて追肥量やかん水量を加減します。

植え付け時期は4月下旬から5月中旬。平ベッド、透明マルチ栽培とし、栽植本数は1,800～2,200本（条間90～110cm、株間50cm）を目安とします。培土は各追肥の直後に行い、盛り上げる土量は合計で15～20cm程度とします。8～9月は圃場が乾いたら1回50mm程度を適宜かん水します。



「ちば丸」

ちば丸の栽培暦

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
作付期間														
主な作業		基肥 マルチ 張り	植 付け		追 肥 ・ 土 寄せ	追 肥 ・ 土 寄せ				収 穫			貯 蔵	